

ハピネスキッズ学習会資料

令和5年3月28日
相談支援事業所 サンクスシェア
高倉 満彦

【 Point1 連絡ノートでの情報交換】

- 事実を書いているか？
 - その子の姿を書いているか？
 - 「支援」と「結果」を書いているか？
 - 個別支援計画を意識して書いているか？
 - よくないことは、原則書いていないか？
(よくないことは直接引継ぎOR電話で)
- ◇ サービス提供の記録としての機能

なぜ連絡ノートを書くのでしょうか

連絡帳は子どものことを見守り、家庭と事業所が**一体となって**適切な療育活動を行うために欠かせないものです。

事業所での子どもたちの様子、活動の内容、頑張り、伸び等...



自宅や学校での子どもたちの様子、体調、保護者からの相談等...



保護者

Happiness
Kids

放デイ事業所と家庭が協力しあうことで、子どもに対してよりよい療育活動を行うことができます。

なぜ連絡ノートを書くのでしょうか

連絡ノートには支援者が**保護者の子育てをサポートをする役割**があります。

事業所での子どもたちの様子、活動の内容、頑張り、伸び等...

自宅や学校での子どもたちの様子、体調、保護者からの相談等...



保護者

保護者および家庭、学校との緊密な連携をとり、必要な時に必要な支援を行うことは支援者の大切な役割です。連絡ノートは**家庭と事業所を結ぶ架け橋の役割**を果たします。

連絡ノートの返事を書いてみましょう！

日 ()		今日は朝からレゴブロックで何かを いっしょうけんめいに作っていました。
機嫌	良い・悪い	最近、感情の起伏が激しいように感じ ます。本人にも理由はわからないようです。
体調	良い・悪い	
帰り	良い・悪い	
検温	家 °C	
	デイ °C	次回利用 ()

日 ()		昨日はずっとスマートフォンで You Tubeを見ていました。あまりにも
機嫌	良い・悪い	長時間していて、なかなかやめることが できなかったので取り上げてしまいました。
体調	良い・悪い	
帰り	良い・悪い	
検温	家 °C	
	デイ °C	次回利用 ()

連絡ノートへの配慮と文章表現の工夫

5W1Hを意識する

質問や疑問には必ず答える

プラス思考で書く

友だちと比べる書き方はしない

エピソードを入れるとわかりやすい

具体的に手立てを書く

発達を押さえて書く・行動の意味づけを

保護者を不安にしない（保護者への心遣いをさりげなく）

なぜ連絡ノートを書くのでしょうか

5W1Hを意識する

When… いつ

Where… どこで

Why… なぜ

Who …だれが

What …なにを

How …どのように

例えば「〇〇くんが紙飛行機で遊びました」よりも、「〇〇くんと△△さんが自由時間に紙飛行機を作ってどっちが良く飛ぶか競争しました」と書いた方が、園児の状況が良く分かります。



なぜ連絡ノートを書くのでしょうか

プラス思考で書く

×「にんじんを残しました」

→○「にんじんが苦手だったようですが、一口だけ頑張って食べられました！」

×「お友達とおもちゃの取り合いで大泣きしました」

→○「友達と大好きな電車のおもちゃのことでトラブルになりましたが、きちんと納得し、交代で使うことができました」

なぜ連絡ノートを書くのでしょうか

友だちと比べる書き方はしない

子どもの発達には個人差があります。発達が早い子どももいれば、遅い子どももいます。

そのため、子ども一人ひとりの発達の状態に即した援助や指導が支援者に求められます。他の子どもと比べて、何が足りない・できないということではなく、その子のよさや育ちの様子をきめ細かく捉え、保護者に伝えるようにしましょう。

連絡ノートの返事を書いてみましょう！

日 ()		今日は朝からレゴブロックで何かを いっしょうけんめいに作っていました。
機嫌	良い・悪い	最近、感情の起伏が激しいように感じ ます。本人にも理由はわからないようです。
体調	良い・悪い	
帰り	良い・悪い	
検温	家 °C	
	デイ °C	次回利用 ()

日 ()		昨日はずっとスマートフォンで You Tubeを見ていました。あまりにも 長時間していて、なかなかやめることが できなかったので取り上げてしまいました。
機嫌	良い・悪い	
体調	良い・悪い	
帰り	良い・悪い	
検温	家 °C	
	デイ °C	次回利用 ()

もう一度、見直してみよう！！

なぜ支援記録を書くのでしょうか??

療育や支援を行った証拠となる

支援提供記録をつける目的のひとつには、利用者に対して放課後等デイサービス事業者が、適切な療育や支援を行ったという証拠を残すことが重要です。

放課後等デイサービスは国の法律に則り行われるサービスであり、報酬も国からの税金で賄われています。そのためサービスを提供した対価として、その額に相応のサービスを提供しているという証拠として記録を残す必要があります。



なぜ支援記録を書くのでしょうか??

利用者の成長や変化を確認するため

放課後等デイサービスを利用している子どもは、日々成長しています。毎日の様子や支援の内容、方法を記録することにより、支援のあり方などを客観的に確認したりすることができます。

- 定期的に行われるモニタリングの際にも、子どもの成長や発達を確認することができます。
- 支援や支援計画、プランの変更などにも役立たせることができます。
- 子どもの気になる様子が見られた際には、過去の記録を調べることで、いつから様子が変わったのかなどを確認し、理由や原因となることを推測し、支援につなげることができます。



なぜ支援記録を書くのでしょうか??

職員の情報共有のため

放課後等デイサービスの支援では、毎回違う職員が支援を行うことが多くあります。しかし、職員が違っていてもハピネスキッズとして子どもに支援を行っています。そのため、利用者の日々の様子を支援者同士が共有し、同じ方向を見定めて支援を行うことが重要になります。

個別支援計画をもとに、目標や支援方法等を確認することが重要です!!

鈴木 一郎さんの個別支援計画

受給者証番号	183111111	有効期限	2018年09月30日	作成回数	1
本人・家族の意向	課題を集中して取り組み直し、技術を自分でできるようになってほしい(家族)、友達と一緒に活動に参加したい(本人)。				
総合的な支援方針	集中して学習に取り組める環境を整え、勉強、遊びプリントを最後までできるように支援します。				
長期目標	自分自身が行わなければならない事を考え、自信を持って取り組めるようにする。				
短期目標	自分自身が行わなければならない事を考え、自信を持って取り組めるようにする。				
状況	本人:あひ 支援者:学校 学校日:白布 近所:あひ 支援者:学校 学校日:白布				
項目	具体的な達成目標	実施内容・留意事項	達成時期		
発達支援	(1)姿勢調整と手の力をつけることや、目の動きをスムーズにすることで、運筆や運動などの学習の操作性を高めます。また距離の少ない環境で活動に集中します。 (2)認識を伸ばすこと、自分の思いを言葉で表現することを伸ばします。 (3)適切な距離感で人との関わり方を身につけます。	(1)プランクやヨガなど体全体のバランスをつけます。またボール遊びや障子紙などの紙を使った6ヶ月遊び、お絵かき、折り紙、運動などの手の機能も高める操作活動を行います。また机上課題では集中しやすいように位置を調整し配慮をします。 (2)コンピュータや活動を通して、支援者やお友達との関わりの中で思いを伝える事や、やりとり言葉を促していきます。 (3)遊びを共有してお友達と関わる機会を作り、支援者が申し立ちとなり、関わり方の成功体験を積み重ねます。			
生活支援	対応の仕方について一緒に考えていく機会を設けて、保護者の方の不安を軽減していきます。	毎月の保護者面談の中で生活の様子をお聞きして、困り事などを一緒に考えていきます。	6ヶ月		
地域連携	地域との交流の機会をもてるようにします。 学校や日中一時支援事業所との共通記録を行います。	学校や日中一時支援事業所と担当者面談の場をもつて、各事業所における子供の様子、地域との交流について話し合います。	夏休み後期		

加刷用番号
保護者氏名

放課後等デイサービス まなぶ名取院
児童発達支援管理責任者 山田 太郎



なぜ支援記録を書くのでしょうか??

鈴木 一郎さんの個別支援計画

氏名	支援計画の目的	実施期間	作成日数
鈴木 一郎さん	自信を持って取り組め、授業も進んでいけるようになること(目標)。友達と一緒に活動に参加したい(本人)。	2018年09月30日	1
長期的な支援方針	集中して学習に取り組める環境を整え、段階、通しプリントを最後までできるように支援します。		
長期的目標	自分自身がやらなければならない事を考え、自信を持って取り組めるようになる。		
短期目標	自分自身がやらなければならない事を考え、自信を持って取り組めるようになる。		
担当	担任 山田 先生、支援員 山田 先生、山田 先生、山田 先生		
項目	具体的な達成目標	支援内容・実施手段	達成時期
学習支援	(1)授業課題と手帳の両方を持つこと、目の動きをスムーズにするため、授業中課題などの手帳の操作を教えます。また課題の少ない課題で活動に集中します。 (2)課題を増やすこと、自分の思いを言葉で表現することを伸ばします。 (3)自信を回復して人との関わり方を身に付けます。	(1)プリントや手帳に書く順番や手順のやり方を教えます。またゴールまで中絶し、課題の数を減らすことで集中力を高め、段階的に課題の数を増やしていきます。また紙と課題で作業できるように設定を調整します。 (2)ロールプレイングや活動を通して、友達や先生との関わりの中で自信を回復させ、作業を促していきます。 (3)課題を共有して友達と関わる機会を作り、支援員が立ち回り、関わり方の実践を補助します。	
生活支援	対応の仕方について一緒に考えていく機会を設けて、保護者の方の不安を軽減していきます。	毎日の保護者面談の中で生活の様子をお聞かせし、関わり方を一緒に考えていきます。	6ヶ月
地域連携	課題への対応の仕方について一緒に考えていく機会を設けて、保護者の方の不安を軽減していきます。	学校や自宅一時生活支援センターとの連携を図り、支援員における子供の様子や、課題の対応について話し合います。	要時・要所

個別支援計画作成者 山田 先生

個別支援計画をもとに、目標や支援方法等を確認することが重要です!!



創作活動



自信がないところは〇〇先生に聞いたり、●●くんの様子を見たりして取り組むことができました。創作活動を通して、友達とのかかわりを楽しむ様子が見られました。また、できた作品を友達に嬉しそうに見せていました。

友達の様子が気になり、集中することが難しかったのですが、一緒に色を塗ったり、はさみの使い方を伝えたりすると約15分間は一人で活動に取り組むことができました。イライラしている様子が見られたので場所を変えて、好きな遊びをしました。休憩をはさみながらでしたが、作品を完成させることができました。

支援記録を書くのPOINT

事実を客観的に書く

主観や推測が入ってしまうと自分から見た感想となってしまいます。そのため、他の人からすると見方が違ったりして意見がぶつかったり、思い込みなどから事実と異なってしまいうことがあるので注意が必要です。

わかりやすい文章で書く

支援記録は情報共有を一つの目的として書くため、職員が見ても読みやすく意味がわかる文章を書く必要があります。回りくどい言い回しなどをせず、具体的な支援の内容や方法、事実（子どもの姿）を客観的かつシンプルに書きましょう。

支援記録は情報共有の目的もあるため、常に職員が見たり読み返せたりする体制を作っておく必要があります。

子どもの姿と個別支援計画をもとに、
支援経過を書いてみましょう！！

